

▷ 小林 裕明 教授

■ 鹿児島大学病院副院長
■ 鹿児島大学医学部産科婦人科



画期的な試みを成功させ モデルケースへ

鹿児島県の周産期医療の向上を願うひとりと
して、今回の協定は本当にうれしい限りです。ご存知のとおり、診療科の中において絶滅危惧種とされていますのが産婦人科でございます。地方でその問題は非常に大きいのが現状です。

本来は鹿児島県あらゆるエリアに二次医療病院があると良いですが、そうすると今度は、高レベルの周産期医療体制を提供できなくなります。肝属地区においては、鹿屋医療センターがその二次病院にあたり、全域をひとつの病院でカバーすることは難しい中で、今回のお話は本当に嬉しいもので、垂水市と慈愛会がスクラムを組むことによって、肝属地区の妊婦さん、婦人科健診等で、すべての女性の方々が安心して、産み育ててくださる可能性ができました。

今後、緊密に連携して、新たな画期的な試みを成功させ、そして他の県の方々がそれを模倣したくなるような成功例、モデルケースにしていただきたいと思います。

▷ 今村 英仁 理事長

■ 公益財団法人 慈愛会



地域を守り・支え・育む 医療機関として

昨今、日本において少子高齢化が進んでいく中で、我々医療機関は、病気になられた方に医療を提供することはもちろんですが、加えて地域を守る、もしくは地域を支える、さらに地域を育んでいくという役割まで求められるようになってきました。

地方では、医療機関の数が減少しております。医療が提供できない地域には安心して住むことができないということで、住む方もますます減っていく恐れがあります。そう考えますと、医療機関の存在は非常に大きなものがありますし、また我々も先程述べた「地域を守り・支え・育む」役割を一層考えていく必要があります。

今回の包括連携協定は初めての試みではありませんが、医療機関として、また、鹿児島県の公益法人として慈愛会に求められる役割をしっかりと果たしていけるように尽力してまいります。

▷ 尾脇 雅弥 市長

■ 垂水市



子どもは宝、未来を 明るくする希望の光

垂水市に限らず、全国で人口減少、少子高齢化という課題があります。我々は環境や制度等の整備はできますが、医療の分野におきましてはなかなか手の届かない分野です。

この度、小林教授と大石教授のご助言をいただきながら今村総合病院を中心とする慈愛会様のお力をお借りし垂水市の皆様に子育て支援や出産、それに類する女性の環境整備といったものにご尽力いただけることは市長として、垂水市の発展と同時に市民の皆様の幸福という大きな目標に少し近づけたという気持ちです。

また、包括連携協定が締結でき、大変うれしく思いますし、多くの地方が抱える課題のモデルケースに繋がってほしいと思っています。

垂水市にとって、子どもたちは宝であると同時に、未来を明るくする希望の光です。今回、県内初の取組ができますこと大変うれしく思います。

▷ 大石 充 教授

■ 垂水市スーパーバイザー
■ 鹿児島大学大学院歯学総合研究科



成功に導き、全国に広げ 少子化の改善へ

私は、垂水市のスーパーバイザーとして、尾脇市長より、健康長寿・子育て支援の分野についての委嘱を受けておりますが、健康長寿が専門のため、子育て支援は、どのようなアプローチがよいか常々思っております。

私は、今回の包括連携協定を新しいモデルケースとして、鹿児島で子育てが難しい地域の良いモデルになるのではないかと考えております。子どもは宝だと思いますし、今後日本がもう一度発展する上で必要なものだと考えておりますし、それを育てていくことが、我々の仕事なのではないかと思っています。

慈愛会と垂水市が連携して、新しい世代を育てあげていく取組を行うことは感無量です。ぜひとも成功に導いて、この取組を鹿児島県内、全国へと広めていただければと思います。私はこの取組を後方支援という形で、垂水市のスーパーバイザーとして何かひとつでもバックアップできればと思います。

包括連携協定式で出席者 4人が語った明日への希望

このページでは、5月10日に鹿児島市で行われた包括連携協定式で尾脇雅弥市長、今村英仁理事長、小林裕明教授、大石充教授の4人が話した思いを紹介いたします。



左記のQRコードからKKB鹿児島放送様で放送された包括連携協定式の動画をご確認いただけます。是非、ご覧ください。